110人のハーモニー

「とめ市民合唱団」、ハンドベル楽団「フロールベルリンガー」らによる「ときめき市民コンサート」が10月10日、登米祝祭劇場で開かれました。

この催しは登米市誕生を記念し、7月に結成された市民参加の合唱団「とめ市民合唱団」が中心となり、地域文化の活性化を目的に開催。コンサートでは「水の里」「君をのせて」「大地讃頌」「ふるさと」の4曲を歌い上げました。また、仙台フィルハーモニー管弦楽団、加藤詢子マリンバ・アンサンブルによる演奏もありました。

今月号では、市民が「ひとつ」になってコンサートを開催した取り組みを紹介します。

合唱団の結成

「合併で登米市になるのだから、新たなまちを盛り上げるために市民合唱団を結成してはどうか」

今年3月、ハンドベル楽団「フロールベルリンガー」団員、高橋由紀子さん（合唱団、ハンドベル指導者）の呼びかけが合唱団結成のきっかけ。7月には、登米祝祭劇場を運営する登米文化振興財団が団員を募集。合併前の各町にあった合唱団（13団体）や市内外から多くの人が参加し、「とめ市民合唱団」がスタートしました。

メンバーは、小学5年生から70代までの110人で、主婦や農業者、会社員などさまざまです。

高橋　由紀子さん（54歳）
迫町・鉄砲丁
実行委員、合唱団指揮者

7月末の練習を皮切りに、平日の夜を利用して練習が始まりました。

コンサートの開催

財団では、合併前から新市の誕生を記念したイベントを検討していました。財団事務局、高橋さん、そして合併前から活動していた「とめ水

特集

「ひとつ」になった

の里合唱フェスティバル」の二階堂将博さんらが話し合い、新合唱団を中心とした市民コンサートを開催することとなりました。

合唱団の練習と並行してコンサート実行委員会を組織。9人の委員がコンサートの運営などについて何度も話し合いました。チケット販売や全体スケジュール、服装など、コンサート開催に向けて数多くの課題が浮き彫りになりました。

中でも、運営資金をどうするかが一番の問題でした。

一丸となって問題解決

問題を解決するために、実行委員、団員らが一丸となって奔走。市内の中学校や高校、官公署などに足を運び、チケットの販売に力を注ぎました。

また、登米祝祭劇場友の会初代会長の菊田二郎さんから「合併記念のイベントに使ってほしい」と財団に寄付があり、資金の問題は解消されました。

コンサートに向けた合唱団の練習は、合計10回を数えました。パートごとの練習と全体練習が基本となり、高橋さんらの熱心な指導のほか、ベテランの人が初心者に基礎を教えるなど、終始和やかな雰囲気で進みました。

実行委員長の二階堂さんは「音楽が地域に及ぼす影響はとても大きい。文化活動が活発でないとまちが寂しくなる。合唱団は音楽分野で活躍している人や歌が好きな人、好きだけど歌う機会がない人たちが集まれる場になってもらえればうれしい」と語りました。

二階堂　将博さん（55歳）
中田町・浅部
実行委員長、合唱団員